2026 年度第６回理事会 議事録

一般社団法人 日本損害保険代理業協会

日　時：2026 年 10 月 16 日(金) 9：00～13：02

会　場：Zoom 開催（日本代協会議室）

出席者：全理事数 17 名、出席理事数 17 名、出席監事数 2 名（錦野監事　小俣監事）
小田島会長 中島副会長　石川副会長　佐々木副会長
大川理事　藤山理事　北岡理事　小橋理事　三好理事　郡理事
村松理事　雨宮理事　橘理事　植村理事　大和理事　金澤専務　坂常務
Web 参加：事務局

会長　小田島　綾子氏は、議長席につき、出席理事数の確認を行い、本理事会は定款第 33 条に基づき、有効に成立した旨を報告して開会を宣し、直ちに議事に入った。

＜会長挨拶＞
理事の皆様、本日もお忙しい中、ありがとうございます。
初めに、連日報道されているサイバー攻撃の被害は深刻さを増しており、その規模や件数、被害の内容を聞くたびに、不安を抱く状況にあります。
情報セキュリティについては、日頃から学び、備えを講じているところですが、知識を常に更新するとともに、お客様にも寄り添いながら対策を進めていくことが大切だと考えます。代協の仲間とのネットワークも活用し、備えを一層充実させてまいりましょう。
さて、前回の理事会から１か月が経過しました。それぞれの役割や業務にお忙しい中でも、皆様が事業を推進してくださっていることを各ブロック協議会や委員会の議事録を通じて拝見しています。災害の多い夏となりましたが、各代協が積極的に課題に取り組まれている姿や、アンケートの実施、代理店事業に直結する勉強会の運営、CSR 活動など、現場での力強い活動から多くの気づきをいただいています。また、毎年継続して取り組まれ、着実に地域からの信頼を深めている行事にも心を打たれます。
お客様の事業環境や生活スタイルの変化とともに、私たちの仕事も、お客様へのサービス提供や業務の進め方において、大きな転換点を迎えています。私たち代理店がこれまで以上に社会のお役に立っていくためにも、今後の協会運営について皆様と議論を重ねることは、非常に大きな意味を持つと考えております。
本日は、表彰制度のあり方の見直しや今後の活動の進め方、現在代理店が取り組むべき課題の進捗確認などについて、議論を深めていきたいと思います。
理事会を重ねる中で、皆様とのコミュニケーションも着実に深まってまいりました。本日はオンライン開催ですが、ぜひ活発なご意見をいただき、充実した討議を進めてまいりたいと存じます。
よろしくお願いします。

＜前回理事会以降の業務報告＞
無し

■報告事項

１．27 年度以降の重点課題、表彰制度の方向性について

事務局からの資料説明に基づき、議論を実施した。6 月の全国会長オリエンテーションでの議論内容から導いた方向性を基に整理しており、12 月の第 7 回理事会で審議決定する。

（主な内容）

・数値目標を表彰項目にすると、目標達成が優先され本来の目的からそれるおそれがある。数値による評価には慎重である一方、代理店の価値向上につながる優れた取り組みを共有し、その意義を周知したい。

・数値目標によって施策の趣旨が歪むことを避け、優れた取り組みを内容で評価し、全国に広げる考えを尊重したい。

・トータルプランナーの年間 840 名という申込目標は廃止したい。申込数を追う意義や個人情報の取扱いを踏まえ、指定教育機関としての役割を果たしつつ、代理店の学びと成長を支援することに軸足を移す。

・代理店が教育の必要性を自ら認識し、主体的に学び続けることが重要。まずは指定教育機関として求められる役割を着実に果たしたい。

・会員増強は組織存続の根幹である。会員数を競う方法は見直しつつ、会員数の±ゼロまたは１店以上の増加を評価する案や、組織率を業界全体の代理店総数から捉える案を検討する。組織強化につながる優れた取り組みも表彰、共有したい。

・数値目標の有無にかかわらず会員増強は不可欠。従来の価値観にとらわれず、代理店全体を視野に入れて会員増強に取り組みたい。

・ぼうさい探検隊は、件数目標が活動を後押しする一方、負担であるとの声もあるため、活動の意義を重視した進め方を検討する。各地の防災マップのホームページ掲載や、コンベンションでの映像紹介など、活動を発信する方法を考えたい。

・数値目標の廃止によって活動が停滞する懸念はあるが、ぼうさい探検隊などは本来の意義が共有されていれば継続できるはずである。会員増強や教育は、活動の目的を共有することが重要。

・教育は、まず本来の役割を果たすことを丁寧に伝えたい。組織面では±ゼロ、＋１増以上の基準や、各代協の運営基盤の把握が課題。ぼうさい探検隊も件数だけでなく活動の意義を重視し、代理店の価値向上に柔軟に取り組むべき。

・数値より行動内容が重要だが、目標をなくす場合は活動意欲をどう維持するかが課題。過去には、設定した目標が、代協内の役割分担や若手の参加を促した例もあり、代替の動機づけや各代協独自の目標設定を検討したい。

・企画環境や教育では、課題の可視化と今後の教育のあり方の検討が必要。組織面では、会費改定を慎重に検討し、各代協が運営に必要な会費と支出を把握すべきである。CSR 活動も発信方法を工夫し、表彰対象や特別賞の扱いを整理したい。

・数値目標がなくなると、会員増強以外の施策が議論されなくなる懸念はあるものの、地域ごとに事情が異なるため、各地が重視する課題を考え、目標がなくとも施策の議論が続く

よう意識づくりを進めたい。

・数値目標の廃止で活動が弱まる懸念と会員増強、CSR は当然の活動との意見がある。地域差を踏まえ、地域担当理事が各地の意欲を維持し、活動の意義を共有することが重要。

・会員数の減少傾向を踏まえ、会員増強は数値として意識し続ける必要がある。教育やぼうさい探検隊について、数値によらず活動内容をどう評価するのかを確認したい。

・表彰のために数値を追う必要性を見直し、特別賞以外の表彰をいったん休止する案もある。ぼうさい探検隊は業界の防災・減災に関わる重要な活動であり、各地の実態を踏まえ、停滞する場合は表彰再開も検討し得る。

・数値目標を撤廃することへの不安はあるが、社会環境や募集人の変化を踏まえ、従来の表彰や課題への取り組み方を見直す必要がある。動機づけの方法は、組織やリーダーによって異なるため、議論を続け、次世代にも示せる形を探りたい。

・表彰のための数値目標は見直しても、各代協・委員会の運営に必要な最低限の水準は明確にし、確保することが重要。

審 1_27 年度以降の重点課題、表彰制度の方向性について

２．事業計画進捗状況

地域担当理事より、各ブロックおよび代協の情報が報告され、共有された。

報 2_（別冊）参考：PlanDo シート

３．前回理事会(9/18)以降の主な業務報告

9 月末の状況について、担当委員長から報告があり、共有された。

（１）仲間づくり推進

・9 月末時点では、入会者数 196 名、退会者数は 390 名である。入会者数は年間目標ベースでは順調に推移しているが、今後の退会者数が年間 800 名以上となった場合、入会目標を達成しても会員数が１万人を下回ることが予想される。

・自己点検や比較推奨に関する制度整備が進み、26 年度から 27 年度にかけて、代理店の廃業、合併がさらに加速する可能性がある。

・会員数減少を抑制するため、従来とは異なる取り組みや目標設定を含め、対策を検討する必要があり、各理事に対し、今後の対応策について協力を求めた。

（２）損害保険大学課程

・Web セミナーの日程は、各ブロックの教育委員が各都道府県代協に確認したうえで設定している。今回、開催期間中に日程変更の要請があり、急遽九州南ブロックに対応いただくこととなった。各理事に対して、Web セミナーが各ブロックの協力のもとで運営されていることおよび損保協会や関連会社にも影響することについて、改めて認識共有した。

・損害保険大学課程 28 年度改訂のワーキンググループおよびタスクフォース（以下 TF と記載）は 10 月の第 4 回 TF のフェーズに入っている。教育委員会の各メンバーは、開催中の後期 Web セミナーの運営、アカデミー対応、TP テキストカリキュラムの年次改定を同時展開する中で、科目ごとの TF に活発に参画しており、感謝申し上げる。今後は科目内容の議論からテキスト作成、実際の講師運営やシステム構築を行う段階となっているので、損保協会との緊密な連携のもと展開する。

報 3-1_（後送）9 月末「仲間づくり推進（正会員増強運動)」状況表
報 3-2_1001 修正_2026 年度【後期】コンサル Web セミナー日程
報 3-3_＜追加＞コンサル改訂 WG（第 4 回 TF に向けて）

４．2026 年度「代理店賠責　日本代協新プラン」更改結果について
組織委員長より、資料に基づき説明があり、共有された。
更改結果については、「10 月 7 日　第 26-55 号(G－5)」にて発信済みである。

報 4_2026 年度「代理店賠責・日本代協新プラン」更改結果

５．正会員実態調査について
組織委員長より、資料に基づき説明があり共有された。
10 月 19 日に案内「第 26-49 号(D-8)」を発信し、20 日より回答を開始する。

（主な内容）
・実施期間は、10 月 20 日（火）9:00～11 月 30 日（月）とし、調査は WEB 無記名式アンケート（URL 共通方式）とする。
・推進および入力の補助ツールとして紙の「チラシ」と「調査票」を活用いただきたい。
※事前に調査票に回答記入してから回答すると入力がスムーズとなる。
・回答率 70%を目指し展開する。

報 5_①告知チラシ：日本代協正会員実態調査 5 前
報 5_②案内チラシ：日本代協正会員実態調査 5

６．魅力研について
中島副会長より、資料に基づき報告があり、共有された。
（主な内容）
・今年度から体制を変更し、地域担当理事全員と副会長 3 名が参加することとした。従来は地域担当理事と委員会理事が数名ずつ参加していたが、各地域で把握した課題や意見を幅広く共有し、議論できる場とすることを目的としている。魅力研では、地域の現場の声や課題を持ち寄り、理事会では十分に議論できないテーマを掘り下げ、今後の活動や提言につなげていく。代理店の魅力向上と日本代協の魅力向上は、一体のものとして考える必要がある。
・今回のテーマは、自己点検チェックシートの運用とした。自己点検本来の目的と現場での受け止め方、保険会社側の認識とのギャップ、改善の方向性について議論した。自己点検は代理店を評価・監査することだけが目的ではなく、代理店自身が課題を発見し、保険会社との対話を通じて改善につなげるためのツールである。単なる制度対応にとどめず、顧客本位の業務運営や業務品質の向上につなげることが重要である。
・現場での課題と懸念については、確認とチェックそのものが重視され、期限内に回答欄を埋めることが優先される傾向があるとの意見があった。また、保険会社の担当者によって、運用や説明、対応に差があることも課題としてあげられた。自己点検結果が、手数料や代理店評価に影響する、あるいは委託継続や代理店の整理・統合の判断材料になるのではないかという懸念が、監査・評価のように受け止められる背景にあると考えられる。

・自己点検の意義としては、自社の弱点や業務上の課題に気づき、保険会社による研修などを通じて改善につながった事例がある。また、自社業務を定期的に振り返る機会となるほか、記録を残すことは、契約更新時や問題発生時のお客さま対応に役立つ財産となる。大切なのは、自己点検をお客さまのために行うという視点である。
・保険会社と代理店の関係、改善の進め方については、保険会社の成長のために代理店がどう変わるかだけでなく、代理店の成長、発展、成功のために保険会社がどう支援するかという視点も重要である。保険会社側にも、自らの対応や運用を振り返る姿勢が必要との意見があった。自己点検は○×の確認にとどめず、その結果を踏まえて PDCA を回し、課題を共有して保険会社と代理店が対話しながら継続的な改善につなげる必要がある。
・日本代協に求められる役割としては、地域の代理店の声を継続的に集め、現場での運用実態や課題を整理すること。損保協会や各保険会社との意見交換につなげ、自己点検の運用方法や対話の進め方について改善を提案すること。また、顧客本位の業務運営や業務品質向上という自己点検本来の目的を代理店の立場から発信していくことが重要である。

報 6_魅力研議事録（2026 年度第 1 回 260930）

７．日本代協コンベンションについて

事務局より、資料に基づき、報告があり共有された。

（主な内容）

・従来配布していた「プログラム冊子」については、ペーパーレスの観点から、ＵＲＬコード等を利用して閲覧する方式に変更する。
・事故対応等のやむを得ない事情による途中退席については一定の理解を示す一方、基調講演中の退席は、講演者に対して失礼に当たる場合があることから、参加者への周知を図る。
・懇親会における来賓挨拶や各社社長の紹介時に私語が多いとの指摘があり、主催者として適切な対応が必要であることを確認した。役員全員がこの点を認識し、会場の静粛な環境の確保に努めることとした。

報 7_（後送）　コンベンション役員用マニュアル

８．業界関連情報について

事務局より、口頭での説明があり、共有された。

９．特別会員退会：楽天損害保険株式会社

事務局より、報告があり、共有された。

（主な内容）

・楽天損害保険より 2027 年 3 月 31 日付で特別会員を退会したい旨の申し出があった。
・退会理由は、同社の販売戦略などを総合的に考慮した結果とのことである。
・特別会員会費における影響は少ない。

１０．その他

（１）2026 年度第 2 回全国会長懇談会（12/4 開催）について

事務局より、資料に基づき報告があり、当日次第案について共有された。

・当日は、特別セミナーとして日本損害保険協会の齋藤専務理事に登壇いただく。

報 10-1_2026 年度第 2 回全国会長懇談会次第（案）

（２）2027 年度日本代協　主要スケジュールの策定について

事務局より、資料に基づき報告があり、共有された。次年度の各ブロック、各代協の次年度スケジュール確定のため早期開示することとした。

・全代協への案内とともに日本代協ＨＰのカレンダーに掲載する。
・各委員会においては、27 年度の効率的な会議、ミーティング開催につなげるよう、検討を要請した。

報 10-2　日本代協 2027 年度　年間スケジュール一覧表（案）

（３）損害保険鑑定フォーラム

事務局より、資料に基づき報告があり、共有された。

・11 月 21 日(土)13 時よりお茶の水ソラシティを会場として、ハイブリッド開催される。
・本年度も日本代協として後援し、案内が到着次第、共有する。

報 10-3【2026 損害鑑定フォーラム】開催のご案内及びご後援のお願い

■監事講評

錦野監事より以下のとおり監事講評があった。

長時間にわたりお疲れ様でした。

まず、地域に根ざした活動が評価されるようになってきたとのお話がありましたが、防災マップの作成など、皆さまが地域のために地道に取り組まれている活動は、本来、非常に価値のあるものだと思います。日々の業務でお忙しい中、地域のために時間を割き、職業倫理や社会的責任に基づいて活動されていることは、誇りに思っていただきたいと思います。あわせて、こうした活動の意義や成果を積極的に発信していくことも大切です。地道な取り組みであっても、その価値を理解してくださる方々は必ずいらっしゃると思いますので、今後もぜひ継続していただきたいと思います。

また、会員数母数を 12 万とする考え方については、私も賛成です。日本代協が業界内で存在感を発揮し、発言力を持つためには、損害保険代理店の中で、どれだけの会員を有しているかが重要な要素になると考えます。代理店数そのものが減少しているという難しい状況ではありますが、会員数を増やしていくことの重要性は変わりません。

そのためにも、日本代協の魅力とは何かを改めて見つめ直し、その魅力を高めていくことが必要ではないでしょうか。

代理店の皆さまは、日々、保険募集の実務を担っておられます。その現場の実情を踏まえ、顧客本位の業務を進めるうえで支障となっている制度や規制があれば、具体的な課題として整理し、改善を求めていくことも重要です。

業界として取り組むべき課題はさまざまありますが、代理店自身の業務をより適切かつ円滑に進められる環境を整えるという観点から、現場の声を集約し、継続的に政策提言につなげていくことは、日本代協だからこそ担える役割の一つではないかと思います。

地域に根ざした活動を大切にするとともに、日本代協の魅力を改めて整理し、その価値を広く発信していくこと、そして会員の声を業界全体の改善につなげていくことが、今後ますます重要になると感じました。以上監事講評といたします。

以上

以上をもって、議長は理事会の終了を宣し、13 時 02 分閉会した。
終始異状なく議案の審議を終了した。
上記理事会議事録を作成し、議長並びに議事録署名人が記名押印する。

2026 年 10 月 16 日

議　　長　会 長　　小 田 島　綾 子　　㊞

議事録署名人　監 事　　錦 野　　裕 宗　　㊞

議事録署名人　監 事　　小 俣　　藤 夫　　㊞

議事録作成者　　坂　雅夫

本書は、2026 年 10 月 16 日に開催された一般社団法人 日本損害保険代理業協会の 2026 年度第 6 回理事会の議事録に相違ないことを証す。

2026 年 10 月 16 日

一般社団法人　日本損害保険代理業協会
会長（理事）　　小 田 島　綾 子